

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日： 2022年 12月28日

事業所名：放課後デイサービスガリレオ六甲道

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	利用者が多いときには狭く感じるところもある。	はい20名 どちらともいえない3名 概ね良好。使い勝手が悪いという意見もある。	整理整頓を行い、不要なものと必要なものを選別し、不要なものは廃棄していく。
	2 職員の適切な配置	通常職員配置も最低基準を上回る人数を確保しているが、曜日により職員配置は最低基準で配置している。ドライバーも含め、改善の余地がある。	はい15名 どちらともいえない1名 分からない7名 他は概ね良好。	職員数が足りているか否かは、実際に見学をして頂いて気付くこともある。参観の日を増やしても良い。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	絵カードや写真カードを使って、整備している。情報伝達等は公式ラインを活用している。	はい19名 どちらともいえない1名 分からない3名 良好。	みんなが分かる掲示物の工夫を引き続きしていく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	清掃・消毒の時間を一日最低1回以上は行っている。	はい21名 どちらともいえない1名 分からない1名 良好。	引き続き、施設の美化活動に取り組んでいく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	会議の時間を設けたり、一日の流れについて確認する時間は毎日設けている。		勤務時間が短いスタッフと連携できていないところがあるので、決まったことはノートなどにまとめて、引継ぎができるようにする。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	機会があれば要請して、専門性の向上を図っている。		外部からの情報を積極的に取り入れ、広報していく。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	個人研修は積極的に行いかけているが、全員参加で学べる機会を設定できてはいない。		研修会を開いたり、環境を整える必要がある。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	保護者との面談を半年ごとに行うように努め、計画を作成している。		計画書内容の重要事項を職員全員で共有し、療育の質を上げていく。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	個々に合った支援方法を考えたり、プログラム内容を工夫したりしている。	はい21名 どちらともいえない1名 分からない1名 良好。面談日を忘れてしまう保護者もいる。	引き続き、個に応じた計画を作成し、職員間で共有していく。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	生活面・社会性・運動面の3本柱で設定し、面談や送迎時にこまめにコミュニケーションをとり、共通理解を図っている。		継続して詳しく記入・更新していく。
適切な支援の提供(続き)	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	計画に沿って実施できている。	はい18名 どちらともいえない2名 分からない3名 できている。	継続して詳しく記入・更新していく。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	月に1度以上会議を行い活動プログラムの計画を作成している。		アイデアを出し合う機会をつくり、子どもたちが楽しめるプログラムを増やしていく。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	休日や長期休暇については、職員数によりきめ細かにしきれていないときもある。	はい20名 どちらともいえない2名 分からない1名 子どもたちは楽しく利用しているので助かっているという意見が多数。	休日プログラムについて、より細かい立案をたてて、全員で共有して支援していく。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	子どもたちが飽きないように、内容を変えたり、工夫したりしている。		継続して子どもたちが楽しめるプログラムを展開していく。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	毎回打ち合わせを行い確認をしている。		継続して打ち合わせを行う。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	全職員ではできていない部分がある。		打ち合わせ時に振り返りも共有できるようにしていく。
	10 日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	保護者様から聞いた話や、感じたことは記録にとって共有している。		継続して記録していく。
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	更新のひと月前までには保護者様に声を掛けるようにしている。保護者様によっては、時間がなかなか取れない方もいらっしゃるため、更新が遅れることもある。		いつが更新月か分かるように、保護者様にも開示する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	外部との会議には積極的に参加できていない。		日程がいつか把握できていないので、情報を取りに行く。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	なし		なし
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	なし		なし
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	支援や配慮が必要であると感じた場合は連絡をとり、外部から連絡が来た場合は迅速に対応している。		継続して行う。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	受け入れ児童が小中学生のため、卒業後について情報提供をした実績はない。		知識を増やせるように、研修や会議に参加する。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	時間や日程が合わず、参加できていない。		広報を行い、一人でも参加して、情報を共有できるようにしていく。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	感染症対策のため、積極的に行えていない。		折を見て交流活動を行えるように計画を立てる。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	見学の依頼が来た時には、迅速に対応している。	はい2名 どちらともいえない2名 分からない13名 わからないという意見が多い。	折を見て地域交流を増やせるように計画を立てる。
保護者への説明責・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約の際に時間をかけて丁寧に行っている。	はい20名 どちらともいえない2名 分からない1名 問題なく行っている。	継続して行き、質問等があったときには迅速に対応できるようにしていく。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	面談時に確認しながら更新したり、説明したりしている。	はい19名 どちらともいえない2名 分からない8名 問題なく行っている。	継続して行き、質問等があったときには迅速に対応できるようにしていく。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	積極的に行っていない。保護者様からご依頼があったり、面談時に相談があったときに行っている。	はい23名 どちらともいえない4名 分からない8名 わからないという意見や、実施していないと感じている保護者様がいる。	折を見てペアレントトレーニングを行えるよう、計画を立てたり、保護者様のニーズに合った活動を行っていくようにする。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	送迎時や面談時に積極的に話したり、聞いたりしたりしている。	はい23名 問題なく行っている。	継続して実施していく。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	送迎時に時間のあるときや、メールでのやり取りで悩みや相談があったときには、真摯に向き合って支援や援助の提案をしている。	はい19名 どちらともいえない2名 分からない1名 概ね行っている。	利用回数の少ない保護者様に関して、もっとこちらから関わることができるので、意識して話を聞いていくようにする。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	行っていない。交流会のときに保護者様同士が関わる機会があったが、十分に開催しているとは言えない。	はい3名 どちらともいえない5名 分からない10名	折を見て交流活動を行えるように計画を立てる。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情を聞いた際には、丁寧に話を聞いて、具体的な解決策をしっかりと考え、保護者様に説明をしている。	はい14名 どちらともいえない2名 分からない7名 概ね問題ない。	わからないという意見も多いので、不満や苦情を抱えている保護者様がいらないか、アンテナを立てたり、面談時に話したりする。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	子どもの些細な変化や、体調不良等、こまめに連絡するようにしている。	はい19名 どちらともいえない1名 分からない3名 概ね問題ない。	継続して情報伝達を行う。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	交流会をするときには、参加表を全家庭に配布して、参加の有無や行事の有用性を伝えている。	はい21名 分からない2名 実施しているかわからない。	引き続き配信を続け、保護者様や利用者様のニーズに合った活動を行うよう計画していく。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報漏れないように、随時点検したり、重要書類はすぐにファイリングするようにしている。	はい18名 分からない5名 概ね問題ない。	日々点検を怠らず、引き続き管理を徹底していく。
1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	マニュアルは整備され、いつでも閲覧可能な状態である。	はい13名 どちらともいえない1名 分からない4名 実施しているかわからない。	更新できていないマニュアルや、未発信のマニュアルを精査し、既存のマニュアルの充実を図る。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年に2回実施しているが、休日にしか行えていないので、平日に行うことも視野に入れ、前利用者が体験できるように計画する必要がある。	はい11名 どちらともいえない2名 分からない10名 実施しているかわからない。 利用日でないため経験する機会がない。	週で実施したり、活動の報告を丁寧にするなどの工夫をする。
	3 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	虐待を防止するための研修を実施している。 また、日頃から目の届く場所に研修資料を置き、目を通してしている。		現状維持。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	こういった場面で身体拘束をするかを打ち合わせ時にこまめに話すことができている。保護者様にも了解を得ることと、行った場合はその時の状況を細かく伝えている。		現状維持。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	食物アレルギーのある児童においては、職員間で共通理解を行い、他の児童とは距離を話して食べる等工夫している。		現状維持。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	事例集はつくっているが、振り返って見たり、共有する時間がとれていないので、改善していく。		ヒヤリハットの事案を振り返る時間をつくったり、全員で再確認・再検討する時間をつくる。